

Title	真珠湾の日中名称小史
Author(s)	田野村, 忠温
Citation	待兼山論叢. 文化動態論篇. 2016, 50, p. 29-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70055
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

真珠湾の日中名称小史

田野村 忠温

キーワード：「真珠湾」／「珍珠港」／Pearl Harbor／意識地名／近代日中語彙交流

1 はじめに

Pearl Harbor は日本語では意識地名「真珠湾」を用いて呼ばれるか、外来語音によって「パールハーバー」と呼ばれる。中国語では「珍珠港」という意識地名が使われる。

しかし、日中いずれの言語においても、Pearl Harbor が時代を通じてそのように呼ばれていたわけではなかった。

筆者は、先に Oxford、Cambridge を表す意識地名「牛津」「劍橋」の歴史について考察した際、Pearl Harbor を表す意識地名の由来についても粗い調査に基づいて推定するところを簡単に述べた（拙論（2015））。この小論では、あらためて調査を行い、Pearl Harbor の日中両語における名称の思いのほか複雑な歴史をより詳細に跡付ける。

2 既存の説とその問題点

「真珠湾」や「珍珠港」の語史に関して学術的と形容し得る考察は存在しない。原（2006）が「真珠湾」の起源を論じているのが筆者の把握する実質的に唯一の関連の発言である。

原は、「真珠湾」が1941（昭和16）年12月の太平洋戦争開戦の新聞報道において「港」と訳すべき harbor を「湾」としてしまった誤訳の産物だと

考え、次のように述べている。

日本人が「真珠湾」という地名に取り憑かれてしまったのは、ニューヨーク特電と題する外電の誤訳にはじまっている。開戦初日の新聞に、「白亜館は日本軍が真珠湾に対し攻撃を開始したと発表」と書いた報道である。ホワイトハウスはパールハーバーが攻撃されたと発表したのであって、これを誰かが真珠湾と独断で取り替えたに過ぎないのである。(中略) これから真珠湾が独り歩きをはじめた。

そして、そうした事情である以上、“そもそも「真珠湾」なるものは存在しない”というのが原の主張である。

しかし、原の論は単なる想像の域を出ず、そこには二重の事実誤認が含まれている。

第1に、「真珠湾」の使用開始は、以下で見る通り、少なくとも1901(明治34)年にさかのぼる。「真珠湾」は太平洋戦争開戦の40年も前から広く使われていた表現であった。

第2に、誤訳の主張について言えば、それは「真珠湾」と Pearl Harbor を見比べ、そこに“harbor = 港”という辞書的な対応の図式を適用して導き出した結論に過ぎない。しかし、「真珠湾」を現代英語で一般的な表現である Pearl Harbor と単純に結び付けて考えるという前提がまず誤っている。原は Pearl Bay という名称は存在しないと決め付けているが、過去の英語では現にそれが使われていた。「真珠湾」は Pearl Bay を訳したものとして見れば異論の余地のない標準的な翻訳である。加えて、Pearl Harbor と「真珠湾」の関係をもっぱら表面的な字義に基づいて捉えることも適切でない。Pearl Harbor は入り組んだ湾の地形が理想的な船の停泊地——天然の良港——になっており、そこでは湾と港のイメージが重なっている。実際、後に見るように、英語においても Pearl Harbor と Pearl Bay が無差別的に使われていたことを確かめ得る事例もある。Pearl Harbor を「真珠湾」と訳しても、高々直

訳的でなくなるだけのことであり、誤訳と非難すべきほどの逸脱はなかった。訳語に「湾」と「港」のどちらを使っても事実上同じことであった。

この小論では Pearl Harbor の日中両語における名称の歴史を跡付けると 1 節で述べたが、それは分かりやすさを優先して単純化した言い回しであった。Pearl Harbor には Pearl Bay を含む別名があった以上、正確には、“Pearl Harbor その他の英語名で呼ばれてきた特定の場所”の日中両語における名称の歴史の解明がここでの主題となる。その特定の場所のことは引用符を添えない“真珠湾”によって示すことにする。

真珠湾への注目は中国よりも日本が先行した。以下においては、日本語、中国語の順に真珠湾の呼び名の変遷を記述する。しかし、そのためにはまず、両国よりもさらに早くから真珠湾に強い関心を抱き、関与を深めていったアメリカ合衆国でそれがどのように呼ばれていたかを確かめる必要がある。

3 真珠湾の英語名

真珠湾の英語における名称には Pearl Harbor と Pearl Bay を始めとして数種類のものがあつた。

なお、ここでは基本的に harbor という綴りを用い、harbour という綴りの使用は資料からの引用の文脈に限定する。

3.1 Pearl River Harbor, the harbor of Pearl River

ハワイ王国のオアフ島にある真珠湾の価値に早く着目した米国人の 1 人は、海軍士官であり探検家であつたチャールズ・ウィルクス (Charles Wilkes, 1798～1877) であつたろう。ウィルクスは 1840 年の探検で訪れた、英語で Pearl River とともに harbor と呼ばれる Ewa 川の河口一帯について次のように述べている。

In this district is a large inlet of the sea, into which the river Ewa empties; at the entrance of this inlet is the village of Laeloa: the whole is known by the name of **Pearl River** or **harbour**, from the circumstance that the pearl oyster is found here; and it is the only place in these islands where it occurs.

(Narrative of the United States Exploring Expedition During the Years 1838, 1839, 1840, 1841, 1842 by Charles Wilkes, U. S. N., Commander of the Expedition, Member of the American Philosophical Society, Etc. in Five Volumes, and an Atlas, Vol. IV, Philadelphia: C. Sherman, 1844)

Pearl River はハワイ語の地名 Wai Momi (“River of Pearls”) の英語訳である (wai = 水、川、momi = 真珠)。19世紀初頭の英国人水夫による世界航海談の口述筆記である Campbell (1816) では Wai Momi は Wymummee などの形で書き取られ、Pearl-river と訳されている。

ウィルクスがー帯の測量によって得た結論は、真珠湾は湾口が珊瑚礁による浅瀬になっているが、そこを深くすれば太平洋における最良かつ最大の港になるというものであった。ウィルクスの話はその後現地の動植物に移るが、そこでは Pearl River と harbor を結び付けた Pearl-River Harbor という表現が用いられている。

Pearl-River Harbour affords an abundant supply of fine fish. (同書)

30年余り後の1872年から翌年にかけて米国陸軍少将のジョン・M・スコフィールド (John M. Schofield, 1831~1906) らが行ったハワイ諸島の調査の報告でも、真珠湾は Pearl River Harbor と呼ばれ、the harbor of Pearl River とも表現されている。ここには、貿易関税免除の見返りに米海軍による真珠湾の独占的使用を求める、米国のハワイ王国に対する意向が述べられている。

With one exception there is no harbor on the islands that can be made to satisfy all the conditions necessary for a harbor of refuge in time of war. This is the harbor of Ewa or Pearl River situated on the Island of Oahu, about 7 miles west of Honolulu. (中略) Neither the Government nor the native people of the islands are, it is believed, prepared to consider the question of annexation at the present time, even if the United States desired to propose it, but the cession of Pearl River harbor as an equivalent for free trade is freely discussed and favorably considered by the Government and people.

*(Papers and Documents Related to the Hawaiian Islands,
Comprised in Senate Executive Documents No.45, No.57, No.76, and No.77,
Fifty-Second Congress, Second Session,
Washington: Government Printing Office, 1893)*

図1は真珠湾の測量の結果を描いた地図(1873年)の1枚である¹⁾。右下の一角が大平洋で、湾が陸地に向かって深く複雑に入り込んでいる。地図に記された Pearl Lochs という名称には後に触れる(5.1)。

Daws (1968) によれば、ハワイ王国から米国への砂糖輸出に係

る関税の免除と引き替えにハワイ王国が米国に真珠湾の使用権を与えるという考えは、ホノルルの有力な新聞(後出)の発刊者であるヘンリー・M・



図1 真珠湾の地図(1873年)

ホイットニー（Henry M. Whitney）の意見でもあった。スコフィールドやホイットニーの考えた真珠湾の米海軍による独占的使用は、1875年に締結された「米布互惠条約」（*The Treaty of Reciprocity Between the United States of America and the Hawaiian Kingdom*）の1887年における更新・改正によって実現した。

3.2 Pearl Harbor

以上のように、真珠湾の英語名は Pearl River Harbor や the harbor of Pearl River として始まったが、時間の経過の中で、River を省いた Pearl Harbor という短い名称が用いられるようになった。確認できたその最初の使用は、ホイットニーの発刊による週刊英文紙 *The Pacific Commercial Advertiser* に1873年に掲載された無題の記事に見出される。

Since Thursday last, the rumor has been current in town that the King in Cabinet Council has agreed to the negotiation of a Treaty of Reciprocity with the United States on the basis of a cession of **Pearl Harbor**.

(*The Pacific Commercial Advertiser*, June 14, 1873)

次の例は Pearl Harbor の米国における初期の用例である。記事の冒頭付近では Pearl River Harbor と記し、後続文脈における再言及時に Pearl Harbor と短縮して表現している。

King Lunalilo on the 14th of November notified United States Minister Henry A. Pierce, through the Department of Foreign Affairs, of his Majesty's withdrawal of the proposition of the treaty of reciprocity formally made last July, giving as his reasons that some eight months had elapsed since the cession of **Pearl River Harbor**, in connection with reciprocity, was first publicly discussed, and over four months since a direct proposition to

negotiate upon that basis was communicated by authority, notwithstanding which, it was not yet known whether or not the Administration at Washington were favorably disposed toward the measure. (中略) While the overtures to the treaty have been going on, nothing has been done to **Pearl Harbor**, nothing has been invested or risked, save discussions on the subject. So far as we can learn, no harm will result to individuals by the withdrawal of the treaty, but it cannot be denied that the action of the King and his Ministry has shown a lack of statesmanship and diplomacy.

(‘The Sandwich Islands’, *New York Times*, December 26, 1873)

3.3 Pearl Bay

Pearl Bay という名称も早い時期から使われていた。用例を 2 件示す。

There is a report that the Hawaiian Government is willing to cede a large section of land near **Pearl Bay** to the United States on condition that we establish a coaling station at that point.

(‘The Sandwich Islands and the United States:

Proposed revival of reciprocity’, *New York Times*, March 3, 1873)

The new treaty maintains the principles of commercial reciprocity that the present one established, but there is an addition to the new treaty. It professes to give to the United States the exclusive use of **Pearl Bay**.

(‘Washington notes’, *Los Angeles Daily Herald*, April 18, 1886)

次のような用例の対比から、Pearl Bay と Pearl Harbor が特に区別することなく使われていたことが確かめられる。いずれもハワイ王国から米国への真珠湾の割譲を共通の形式——the cession of Pearl Bay、the cession of Pearl Harbor ——によって表現している。

The real ground of their opposition is an apprehension felt that the United States will derive some substantial benefit from the King's visit, and the way be paved for **the cession of Pearl Bay** or the annexation of the islands to our country. (*Papers Relating to the Foreign Relations of the United States,*

Transmitted to Congress, with the Annual Message of the President,

December 6, 1875, Volume I,

Washington: Government Printing Office, 1875)

In return for these privileges, besides **the cession of Pearl Harbour**, Mr. Blaine asked a pledge from Hawaii to enter into no treaty engagements with other powers, without the full previous knowledge of the United States.

(*The Review of Reviews*, Vol. 4, No. 21, 1891)

3.4 the harbor of Pearl Bay

the harbor of Pearl Bay という表現もあった。次の例は米国の実業家であり外交官であるヘンリー・ピアース (Henry A. Peirce, 1808 ~ 1885) がおそらく 1870 年代前半に国務長官ハミルトン・フィッシュ (Hamilton Fish) に送った報告の一節である。ピアースは互恵条約締結やハワイ併合の実現のために尽力した人物である (Rigby (1980))。この報告は Kuykendall (1967) に部分的に引用されている。²⁾

... if the U S Government is of opinion that acquisition of **the harbour of Pearl Bay** ... is, as a national measure desirable; a proposition to that end could very properly be made by the State Department to the Hawaiian negotiators when offering to treat on the basis of Reciprocity of Commerce.

もっとも、the harbor of Pearl Bay はほかの資料中に用例を見出せておらず、どの程度広く使われたものであるかは不明である。

ほかに、時代が下がると the naval port of Pearl Harbor という表現も見られ

る。ただし、これは真珠湾の日中両語における名称には影響を与えていない。

Oahu, because of its strategic location and the fact that it contains the **naval port of Pearl Harbor** and the commercial port of Honolulu, is at once the most important island not only of the Hawaiian group but in the entire eastern Pacific Ocean. (*War Department Appropriation Bill, 1923, Washington: Government Printing Office, 1922*)

以上において見てきたように、英語には真珠湾を表す数種類の名称—— Pearl River Harbor、Pearl Harbor、Pearl Bay、the harbor of Pearl Bay など——があった。

4 真珠湾の日本語名

英語名の多様性に対応して、日本語にも真珠湾を表す多数の名称が作られた。例外はあるが押しなべて言えば、各種の名称の発生や使用に明確な時間差はなく、太平洋戦争終戦まではその多くが併用されていた。

なお、以後本文中では、外来語表記の変異形は現代の一般的な表記で代表させる。例えば、Pearl には「パール」「パアル」「ペアール」「ペエール」「ポール」「ポルル」などの表記があったが、そのすべてを「パール」によって示す。また、日中両語の資料からの引用においては句読点ほかの調整を施す場合がある。

4.1 「真珠河港」「真珠江港」—— Pearl River Harbor

日本は米国より約半世紀遅れて真珠湾に関心を寄せるようになった。それは、真珠湾がアジアと米国の中間に位置し軍港に適した地形を持つ場所であるからであり、その真珠湾そしてハワイ王国を手中に収めようとする米国の動向を注視、警戒していたということにほかならなかった。

調査によって確認できた限りでは、真珠湾は Pearl River Harbor を意識した「真珠河港」という名称によって初めて日本社会に伝えられた。次の新聞記事の表題に言う「米布新条約」は、先に触れた「米布互恵条約」の改正版を指す (3.1)。

布哇国のホノル、を離る、事凡そ二十里程の処に一の岩礁を以て囲みたる天然の江湾ありてこれを真珠河港と称せり。

(「米布新条約」『読売新聞』1887 (明治20) 年3月16日)

ここでは真珠湾を湾として説明しつつ「真珠河港」と呼んでいる。2節で述べた通り、真珠湾は湾であると同時に港であった。

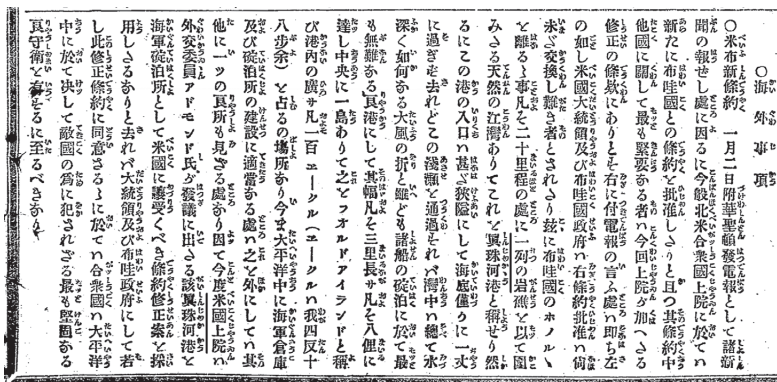


図2 『読売新聞』1887 (明治20) 年3月16日

約十年後の次の新聞記事では「真珠江港」と訳している。

太平洋海底電線会社は米國太平洋海岸の一点より布哇の真珠江港に至り同所より会社が其連絡を許可せらるゝ太平洋中其他の箇所及び日本に至るまで海底電線を沈設上陸維持營業する特権を有すべし。

(「太平洋海底電線会社の計画要領」)

『東京朝日新聞』1896（明治29年）年1月26日）

これらの「真珠河港」「真珠江港」の名は普及することなく、早い時期に消えた。

4.2 「パールハーバー」「パール港」「真珠港」—— Pearl Harbor

Pearl Harbor の名称に忠実な日本名には「パールハーバー」「パール港」「真珠港」の3つがあった。それらの初期の用例を次に示す³⁾。第2の例は米国人の書いた文章の翻訳である。

合併論者ハ軍略上之ヲ合併スヘシト謂フト雖トモ是レ感情ニ訴フルノ議論ノミ。畢竟口実ト為スニ足ラス。何トナレハ米ハ布ニ於テ真珠港ヲ所有スルニアラスヤ。以テ軍艦ヲ繫クヘク以テ薪炭ヲ採ルヘシ。何ノ必用アツテカ復タ更ニ軍港用ノ為ニ布哇ヲ取ルコトヲ要センヤ。

（外山義文編『日本ト布哇 革命前夜之布哇』、1894（明治27）年）
布哇と我国は地理上に於ては分離し居ると雖も、亜米利加の国旗が同島の上に翻へるは決して遠きことにあらざるを信ず。或る勢力ある日本人より余の聞知する所を以てすれば、彼等の糖業に従事する所以は終局は該業を其国民の手に収むるに在りと思ふに、彼等は久しからずしてパール港に対する特権を日本政府に付与せんことを要求するに至るべし。

（「在布日本労働者の景況（承前）（米国視察委員の観察）」

『東京朝日新聞』1897（明治30）年6月27日）

是パールハーバー（真珠港）とて有名なる布哇の良港なり。千八百七十六年米布相互条約を締結せるや、米国は此真珠港を米国の海軍用港として使用すべきを約したり。 （「米国一部の垂涎せる布哇真珠港」

『読売新聞』1897（明治30）年6月28日）

これらの記事の書かれた直後の1898（明治31）年にはハワイ共和国——

ハワイ王国は1894年に廃止されすでに事実上米国の支配下にあった——は米国によって併合された。

3つの名称はいずれも20世紀前半まで使い続けられたが、「パールハーバー」以外のものは太平洋戦争後に消滅した。

なお、「パール港」「真珠港」に「軍」を添えて「パール軍港」「真珠軍港」とした事例も見られる。

本国を離れては布哇のパール軍港（真珠湾）を本拠として、布哇のホノル、比律賓のカヴキテ及オロンガボ、グアム島、サモア島等に二等以下の海軍根拠地あり。

（『巴奈馬太平洋万国大博覧会 第壱』、1912（大正1）年）
斯かる間に米国政府が巨額の経費を投じて経営したる布哇の真珠軍港は、海陸の設備を完成し、愈々開庁式を挙行することゝなつた。

（北原鉄雄『次の一戦』、1914（大正3）年）

4.3 「パールベイ」「パール湾」「真珠湾」—— Pearl Bay

Pearl Bayの名称に忠実な「パールベイ」「パール湾」「真珠湾」の初出例は次の通りである。

港湾は全島其数極て少く、^{ていけい}碇繋の船舶をして能く安全を保たしむ可きもの僅かに二三に過ぎず。現時最良港と称すへきものオアフ島の南岸なるホノルル港なれども、同港より西の方七哩の所に在るポルル湾（往きに合衆国に貸与せられたる）は蓋し将来の最良港ならん。

（瀬谷正二『布哇』、1892（明治25）年）

当ホノル、の西南に^{あたつ}当て真珠湾あり。^{けふせう}湾口狭小にして^{うちしんくわう}内深広、実に他に得易からざる天然の良港を形成し居るより、先年来米国政府は当湾を未来の軍港と決定し、先づ其附近の土地を買収せんと試みしに（後略）

（「軍港地の地価争ひ」『東京朝日新聞』1901（明治34）年12月15日）

一同上陸の後ヤング・ホテル楼上にて休憩し、更に別仕立の列車にてホノル、を距ること二十五^{マイル}哩なる真珠湾^{パールベイ}に到り、此処にて又盛なる^{さかん}歓迎会に列したり。

(「米実業家来着」『東京朝日新聞』1908(明治41)年10月13日)

「パールベイ」は第3の例におけるルビとして示されており、これが確認できた唯一の出現である。「パール湾」と「真珠湾」はいずれも20世紀前半まで広く使い続けられたが、前者は太平洋戦争後に消滅した。

4.4 「真珠湾港」—— the harbor of Pearl Bay

英語の the harbor of Pearl Bay を翻訳した形になっている「真珠湾港」という名称の用例も散見される。

ホノルルに於ける米国海軍側の発表に依れば、軍用船ヘンダーソン号は交替兵二百余名を搭載し、二十七日ホノルル発ガム経由支那に向かったが、右人数の約半数は真珠湾港より選抜せられ上海陸戦隊、艦隊乗員及北平大使館附として夫々交替の者なる由。

(「支那事変と各国政府」『国際月報』第7号、1937(昭和12)年)

「真珠湾港」は、それを見慣れない現代人の目には冗長に見えるが、湾の地形の港としての機能を正確に表現した名称である。

「真珠湾港」についても、「軍」を加えた「真珠湾軍港」という名称もあった。

米国政府が布哇の防備に巨額の費用を投ずべき事は専ら世上の噂に上りたる所なりしが、愈^{いよいよ}当期議会に提出する陸軍技師長マツケンヂー將軍の編成せる要塞及沿岸防備費二千三百四十五万一千九百一^{ドル}弗^{うち}の中に於て、布哇ホノル、港及び同真珠湾軍港設計の爲め百十一万弗、マニラの

為めに六百四十八万八千弗（中略）を要求すること、なれり。

（「布哇比律賓の防備」『東京朝日新聞』1907（明治40）年11月30日）

4.5 2つの名称の残存に関する考察

以上において見てきたように、20世紀前半までの日本語には真珠湾を表す名称が何種類もあった。そして、太平洋戦争後にはそのうちの「真珠湾」と「パールハーバー」だけが残った。この2つの名称の残存に関しては考察に値する問題が2つある。

その第1は、真珠湾を表すのに使われていた多様な名称のうち「真珠湾」と「パールハーバー」の2つが最終的に残った理由である。

これに関して筆者に考え得る範囲のことを述べれば次の通りである。まず「真珠湾」について言えば、本稿末尾の「真珠湾名称年表」に見る通り、太平洋戦争の時期の日本語では「真珠湾」が使用頻度において他の名称をしのいでいた。「真珠湾」の残存はそのことを反映するものと思われる。もっとも、それだけでは「真珠港」などの地名が消滅したことの説明にはならない。

他方、「パールハーバー」については、20世紀前半を通じて使用頻度は低い。そのようなものがなぜ太平洋戦争後に勢力を拡大したのであろうか。筆者は、「パールハーバー」の名称は“Remember Pearl Harbor”という米国のスローガンなどを通じて戦後の日本社会に再導入され、普及したものと推測する。そのような見地に立てば、“多数の名称のうち「真珠湾」と「パールハーバー」の2つが残存した”という見方そのものが実は不正確であることになる。「真珠湾」は日本人が戦中から聞きなじんでいた名称の残存であるが、「パールハーバー」は半ば新規の名称であり、必ずしも旧称が好んで使われるようになったということではない。

名称の残存に関わる第2の問題は、「真珠湾」という漢字表記の地名が生き残った経緯である。「真珠湾」は見方によっては現代日本語の外国地名として異例の存在なのである。

1946（昭和21）年11月に文部省の発表した「当用漢字表」において「使用上の注意」の1項として次のように定められた。

外国（中華民国を除く）の地名・人名は、かな書きにする。ただし、「米国」「英米」等の用例は、従来の慣習に従つてもさしつかえない。

これを受けて、「欧羅巴」「英吉利」「独逸」「仏蘭西」「亜米利加」
ハワイ フィリピン カンボジア ワシントン フィラデルフィア
 「布哇」「比律賓」「柬埔寨」、「倫敦」「柏林」「巴里」「華盛頓」「費拉特費」
ウラジオストク サンフランシスコ ロサンゼルス サクラメント
 「浦塩斯徳」のような音訳地名、「桑港」「羅府」「桜府」のような音訳と
アイスランド オックスフォード ハリウッド
 普通名詞の組合せによる地名、「氷洲」「牛津」「聖林」のような半面意識
 地名（拙論（2015））——表記上は翻訳するが、発音は外来語音による地名
ケンブリッジ ダリニッジ セントペテルスブルグ
 ——、「劍橋」「緑威」「聖彼得堡」のような部分意識地名（同）——音訳と
 意識の組合せによる地名——などは日本の社会から急速に姿を消した⁴⁾。そ
 うした観点からすれば、漢字で表記される外国地名である「真珠湾」の残存
 は例外的な現象であることになる。

しかし、「当用漢字表」の「使用上の注意」の趣旨を捉え直せば、問題の見え方が違ってくる。まず、「当用漢字表」以後に生き延びた漢字表記の外国地名を観察すれば、そこには2つの類があることが分かる。1つは、「欧」「英」「米」のような音訳地名の略称で、多く「欧州」「英国」「在米」「英米」のような造語に使われる。もう1つは意識地名で、使用の歴史の長いものには「太平洋」「地中海」「紅海」「喜望峰」など、相対的に新しいと見られるものには「真珠湾」のほか「金門（海）峡」「黄金海岸」「象牙海岸」などがある。

それら2類の漢字表記の外国地名はある特性を共有している。それは、いずれも漢字音で読まれるということである。例えば、「当用漢字表」以後使われなくなった「欧羅巴」と残存した「欧州」「渡欧」などの「欧」との対比で言えば、前者は発音が外来語音ヨーロッパであり、表記を無理なく仮名に変えることができた。しかし、後者の「欧」は発音は漢字音オウであ

り、それを含む語を仮名で書けば「おう州」「渡おう」のような混質的な表記——“交ぜ書き”——になってしまう。意識地名についても同様で、廃れた「牛津」と残った「真珠湾」を比べると、半面意識地名である「牛津」は発音が外来語音オックスフォードであるから、容易に仮名表記に変えることができた。他方、表記・発音の両面で翻訳・変換を経た「真珠湾」を仮名で書けば「しんじゅわん」という過度に平易な表記になってしまう。

そうした理解を前提として「当用漢字表」の「使用上の注意」を見直せば、それはより正確には、“外来語音で発音される外国の地名は仮名で表記する”と規定すべきものであったように思われる。そして、もしそのように規定していれば、“「米国」「英米」等”、“従来の慣習”という曖昧な例示と根拠に頼って例外の存在を述べる必要もなかったことになる⁵⁾。

「当用漢字表」の記述をそのように再解釈すれば、漢字音で読まれる意識地名の「真珠湾」における漢字の使用はそもそも排除の対象ではなかったことになり、したがって、その現代日本語における残存を例外的な現象と受け止める必要はないことになる。

5 真珠湾の中国語名

中国語における真珠湾の名称はすべて意識による。

中国では早い時期には真珠湾を表すのにおそらく日本語の名称とは無関係の意識地名が用いられていた。その後、それらに代わって日本語の名称に一致する「真珠湾」「真珠港」が普及した。そして、さらにその「真珠」を「珍珠」で置き換えた名称も使われるようになり、最終的には「珍珠港」の名が定着した。

5.1 「珠湾」「珠港」

中国資料における真珠湾への早期の言及は、1898（光緒24）年刊行の謝希傳『帰査叢刻七種』（東山草堂、1898（光緒24）年）に収められた『檀

香山群島志』⁶⁾に見出される。真珠湾は同書の2か所で「珠湾」として記述されており、次はその1か所である。

在南海岸中間與賀那魯魯接界相近處有珠灣英文曰割爾老吃，亦大口岸也。

(謝希傳『檀香山羣島志』、1898(光緒24)年)

この「珠湾」は、調査によって得られた情報の限りでは、真珠湾の日本名とは関わりなく作られたものであるように思われる。19世紀の英華辞典は多く「珍珠」または「珠」を pearl の第1の訳語としていた。また、19世紀における真珠湾の日本語の名称は「湾」より「港」を使うもののほうが一般的であった(4.1~4.3)。

「珠湾」の英語名として割り注の形で示された「割爾老吃」の「老吃」が何を表すかは詳らかでない。強いて筆者の推定を述べれば、「老吃」は loch という名詞の、発音の誤解に基づく音訳ではないかと思われる。Pearl River は Pearl Lochs とも呼ばれ、図1の地図にもそのように記されていた。ほかにも例えば次のような記述がある。

Pearl river or Pearl lochs, situated on the south side of the island, is a large irregular shaped lagoon or inlet, greatly cut up by projecting points and islands, and the water of which is somewhat freshened at its inland extremities by the streams that run into it.

(*Pacific Islands, Vol. III, Sailing Directions for the Tubuai, Cook, and Society Islands; Paumotu or Low Archipelago; Marquesas; Scattered Islands near the Equator, and the Sandwich Islands*, London: J. D. Potter, 1885)

loch は *Oxford English Dictionary* 第2版によれば“湖”のほか“入り江”(an

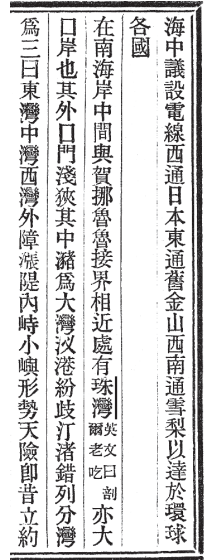


図3 『檀香山群島志』

arm of the sea) を表すゲール語起源の語である。ただし、‘ch’ で表されている語末の子音は [x] ないし [k] であり、「吃」の字はその音訳として——おそらく方言音を考慮しても⁷⁾——不適切である。しかしながら、‘ch’ の発音を [tʃ] と見る誤解に基づく音訳だったと解釈すれば、「老吃」は自然な表記であることになる。

別の可能性として、「老吃」は lodge で、船の停泊場所を表すとする解釈も考えられる。音訳上の無理はないが、真珠湾を Pearl Lodge と記した文献が確かめられず、「湾」という翻訳との関係から考えても、その可能性は低い。

真珠湾の中国名に話を戻せば、「珠湾」は『檀香山群島志』以外の資料には使用を見出せていない。

同じく「珠」を用いた「珠港」という名称も使われていた。こちらは用例が多く、複数の辞書類にも掲載されている。

二十八日倫敦電云：華盛頓電稱：美衆議院之海軍委員議在太平洋、大西洋建置可容最巨戰艦之浮水船塢各一所，並議以火奴魯魯之珠港改作海軍港。

(『申報』3月3日、1908(光緒34)年)

美國在太平洋方面軍略上最重要之地點爲夏威夷羣島。如首都火奴魯魯附近之珠港有天然爲世界最良海軍根據地之資格。

(『東方雜誌』第12卷第12號、1915(民国4)年)

この「珠港」が日本語の「真珠港」をもとにして作られた名称であったかどうかは不明である。両者のつながりを確認できる証拠が見出せず、差し当たり「珠湾」と同じく日本語に関わらない名称と見ておくのが穏当であろう。

「珠港」はそれなりに使われたが、以下に述べる「真珠湾」その他の名称の普及に伴って消滅した。なお、稿末の年表に見る通り、『英華華英地名検査表』(1920)など、「珠港」の原名を Pearl Port としている資料があるが、その名称は英語資料中には確認できていない。

5.2 「真珠港」「真珠湾」

中国における「真珠湾」の初出は1902（光緒28）年である。第2の出現例とともにそれを示す。新聞記事の日付の表示は西暦による。

南洋新加坡叻報云：太平洋西畔火奴魯魯國島之西南有真珠灣焉。口狹内深天然形勝也。（「美國軍港」『申報』2月16日、1902（光緒28）年）
其於太平洋方面既設定夏威夷真珠灣之海軍根據地。

（「米國海軍現狀」『國風報』第1年第3號、1909（宣統1）年）

「真珠湾」は日本語から借用されたものと見られる。19世紀の英華辞典の多くは「真珠」を pearl ではなく小粒の seed pearl の訳語としていた。また、日本語との関連を確認できない「珠港」と異なり、「真珠湾」の初期の用例は、上掲の初出例を例外として、表1の通りすべて日本とのつながりが認められる。梁啓超は1898年から1912年にかけて日本で亡命生活を送っている。

表1 「真珠湾」の初期の用例と日本との関係

刊年	資料名	日本との関係
1909年	『国風報』第1年第3号	梁啓超らの創刊による雑誌
1911年	『盛京時報』10月1日	日本人の創刊による新聞
1912年	『庸言』第1巻第3号	梁啓超らの創刊による雑誌
1916年	『申報』12月18日	『大阪朝日新聞』の記事の翻訳
1921年	『申報星期増刊』11月6日	日本人執筆記事の翻訳

「真珠港」は、調査の限りでは初出が「真珠湾」より20年近く遅く、1920（民国9）年に用例が現れる。

一九一六年，美國電話電信會社由華盛頓至桑港附近計二千五百哩之長距離，又由阿林克嶼⁸⁾之電話局至布哇真珠港高塔計四千九百哩之長距離，

均行無線電話之試験。（何海鳴『中國工兵政策』、1920（民国9）年）

「真珠湾」と「真珠港」の使用開始の時間差の原因は不明であるが、上の用例中にサンフランシスコを表す日本語の名称「桑港」⁹⁾が含まれていることは、「真珠港」も「真珠湾」と同じく日本語から借用された可能性を示唆している。

1920年代までの中国における真珠湾の呼び名は、孤例の「珠湾」を別とすれば、「珠港」「真珠湾」「真珠港」のいずれかであった。

5.3 「珍珠港」「珍珠湾」

その後「真珠湾」と「真珠港」の「真珠」を中国語で pearl を表す「珍珠」に置き換えた名称が作り出される。1930（民国29）年と1934（民国23）年に現れた「珍珠港」「珍珠湾」の初出例を次に示す。

杜錫珪氏海軍考察團乗日本郵船會社淺間丸、於十二月三十日由橫濱起程赴美，二十七日下午二時抵檀香山（中略）翌日即赴珍珠港（軍港名）答拜，並乘車巡覽船塢工廠飛機場一週。

（「海軍考察團抵美後」『申報』2月25日、1930（民国19）年）
 總統抵檀島後（中略）星期五將視察珍珠灣海軍根據地。

（「羅斯福¹⁰⁾巡遊檀島日程」『申報』7月25日、1934（民国23）年）

最終的にはこの2通りの名称のうち「珍珠港」が選ばれ、真珠湾の標準的な中国名として定着した。日本語と異なり「湾」ではなく「港」が選ばれた理由は不詳である。「港」が harbor の翻訳として適切であると見なされたということかも知れないが、真相を確かめる術はない。

なお、日本語で「真珠湾軍港」という表現が使われることがあったのと同じく、中国語でも「真珠湾軍港」「珍珠湾軍港」という表現が使われることがあった。

布哇島真珠灣軍港爲美國在太平洋作戰上重要根據地之一。

（「太平洋上美國積極軍事準備」『申報』9月24日、1932（民国21）年）
 美國海軍部當局爲應付太平洋上之新形勢，強化擴充檀島珍珠灣軍港，同時決在該灣上建設一大躉船，足以容納最大之軍艦。

（「美加緊進行造艦程序」『申報』7月15日、1936（民国25）年）

6 おわりに

資料の調査に基づいて推定される、19世紀から20世紀前半にかけての、真珠湾の英語名を起点とした日中の各種名称の発生関係の概略を図示すれば図4のようになる。現代の一般的な名称を太字、ゴシック体で示す。図の煩雑化を避けるために、「港」を「軍港」と表現した名称は省いた。

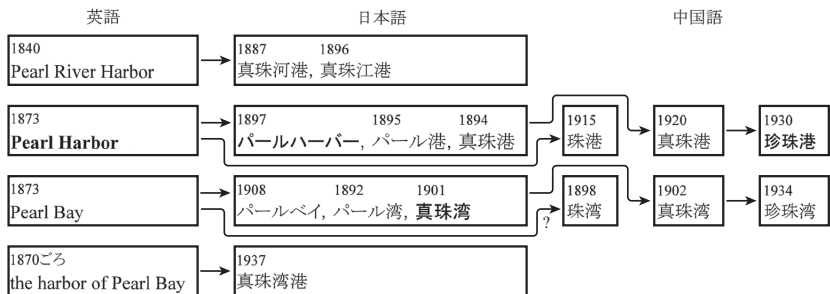


図4 真珠湾の英日中名称間の関係

19世紀以後、真珠湾は複数の英語名で呼ばれた。それを反映して日本語でも真珠湾を表すさまざまな名称が作られて使われたが、太平洋戦争後には「真珠湾」と「パールハーバー」以外の名称は消滅した。

中国語における真珠湾の名称には、早期には独自のものがあつたが、その後日本語から借用された「真珠湾」と「真珠港」が普及し、その後「珍珠湾」「珍珠港」の2語が生まれ、最終的にはその後者が定着した。

最後に、真珠湾を表す各種意識地名の意識地名全般、近代日中語彙交流全

般における位置付けを手短に述べておく。意識地名はそのほとんどが中国で作られた（拙論（2015））。数少ない例外の1つはOxfordを表す「牛津」で、これはOxford大学の初代中国語教授を務めた英国人James Legge（中国名理雅各）によって作られた。また、Cambridgeを表す「劍橋」やHollywoodを表す「聖林」「佟林」は日本人によって作られた。¹¹⁾ 真珠湾については多様な意識地名が作られたが、あるものは日本人、あるものは中国人によって考案された。そして、その一部は日本語から中国語に借用され、日中両語間の語彙交流の歴史の一面を成した。

[注]

- 1) 地図は米国議会図書館のWebサイトで公開されている。URLは次の通りである。
<https://ccn.loc.gov/2010587737>
- 2) 米国政府の刊行物におけるこの書簡の掲載を探したが見出せなかった。
- 3) 地図における表示を含めると「パール港」についてはさらに早い用例がある。1895（明治28）年の相田長吉編『布哇国諸島全図』は真珠湾を「ペエール港」と記している。
- 4) 「聖林」は現代でも使われているが、映画に関わる世界での限定的な使用にとどまる。
- 5) ここで述べたのは「使用上の注意」に関する学術的な見地からの再解釈、評価である。一般向けの説明としては「当用漢字表」で実際に使われた規定がたとえ不正確でも分かりやすくてよかったと思われる。
- 6) 「檀香山」はホノルルを表す中国語の意識地名。当地が中国で“檀香”（白檀）の産地、輸出元として知られ、そう呼ばれるようになった。ただし、「檀香山群島」と言うときの「檀香山」はハワイと解するのが自然である。なお、「檀香山」は直訳的な意識地名ではなく、拙論（2015）の「意識₂的な意識地名」に相当する。
- 7) 上海図書館編『汪康年師友書札（四）』（上海古籍出版社、1989年）における解説によれば、『檀香山群島志』の著者謝希傳は「江蘇婁県（今上海松江）人」である。もともと、「老吃」という音訳が謝自身によるものであったかどうかは不明である。
- 8) 「阿林克頓」は米国Virginia州の地名Arlingtonの音訳。
- 9) 「桑港」の成立過程については荒川（1997）を参照。
- 10) 「羅斯福」は米国大統領名Rooseveltの音訳。
- 11) 「聖林」は植物名hollyを形容詞holyと取り違えた誤訳であることが早くから知

られている。「柊林」はその誤訳を正すべく作られた訳語である。ただし、武田(1933)によれば、holly は「柊」とは似て非なる樹木で、「柊林」の訳語も不適切だと言う。

「劍橋」「聖林」「柊林」以外にも、4.5 で触れた「金門(海) 峽」や「象牙海岸」「奴隸海岸」などの意識地名もおそらく日本で作られ、中国に伝播したものと思われる。

「真珠湾」「真珠港」の関係で補足すれば、真珠湾北岸沿いの町の名である Pearl City を「真珠市」と意識した事例もある。大石揆一『日米問題実力解決策』(三光堂、1916(大正5)年)は Pearl City を「ポールシチー」「真珠市」と両様に表現している。ただし、文献における Pearl City の出現自体が少なく、「真珠市」の使用はほかの資料には見出せていない。Pearl City は、*Reports of the Senate of the United States for the Second Session of the Fifty-Third Congress, 1893-'94 in Seventeen Volumes, Volume 2* (Washington: Government Printing Office, 1895) に収められた報告によれば、オアフ鉄道土地会社によって開発された。

[文献]

- 荒川清秀(1997)『近代日中学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に—』(白帝社)
- 武田久吉(1933)「聖林か柊林か」『現代』第14巻第6号(大日本雄弁会講談社)
- 田野村忠温(2015)「意識地名『牛津』『劍橋』の発生と消長」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第55巻
- 原徳三(2006)「『真珠湾』はない」『文芸春秋』第84巻第12号[文面の調整を経て日本エッセイスト・クラブ編『ネクタイと江戸前'07年版ベスト・エッセイ集』(文芸春秋、2010年)に再録されている。]
- Campbell, Archibald(1816) *A Voyage Round the World, From 1806 to 1812; In Which Japan, Kamschatka, the Aleutian Islands, and the Sandwich Islands, Were Visited.* Edinburgh: Printed for Archibald Constable and Company, et al.
- Daws, Gavan(1968) *Shoal of Time: A History of the Hawaiian Islands.* New York: The Macmillan Company.
- Kuykendall, Ralph S.(1967) *The Hawaiian Kingdom, Volume III, 1874-1893: The Kalakaua Dynasty.* Honolulu: University of Hawaii Press.
- Murphy, William B.(1967) 'Pearl Harbor before "Pearl Harbor"'. *Our Navy*, Vol. 62, No. 1. New York: Our Navy, Inc.
- Rigby, Barry(1980) 'American Expansion in Hawaii: The Contribution of Henry A. Peirce'. *Diplomatic History*, Vol. 4, No. 4. The Society for Historians of American Foreign Relations.

真珠湾名称年表

年	日本資料	中国資料
1887(明治20,光緒13) ※「米布互恵条約」改正	読売新聞3/16 真珠河港【初出】	
1892(明治25,光緒18)	瀬谷正二 布哇 ポール湾【初出】	
1893(明治26,光緒19)		
1894(明治27,光緒20) ※ハワイ共和国成立	外山義文編 日本ト布哇 真珠港【初出】	
1895(明治28,光緒21)	樞田長吉編 布哇国諸島全図 ベエール港【初出】	
1896(明治29,光緒22)	東京朝日新聞1/26 真珠江港【初出】	
1897(明治30,光緒23)	吉川安太郎編 布哇共和国全島地図 ホール港 東京経済雑誌890 真珠港 東京朝日新聞6/27 パール港 読売新聞6/28 ポールハーボア【初出】、真珠港	
1898(明治31,光緒24) ※米国 ハワイを併合		謝希傳 檀香山群島志 珠湾【初出】
1899(明治32,光緒25)	憲政党党報1-8 パール港 読売新聞4/17 パール港	
1900(明治33,光緒26)	藤井秀五郎編 新布哇 パール港、ベエール港、 パール湾	
1901(明治34,光緒27)	東京朝日新聞12/15 真珠湾【初出】	
1902(明治35,光緒28)	東京朝日新聞1/16,2/4,23,3/3,18 真珠湾	申報2/16 真珠湾【中国初出】
1903(明治36,光緒29)	東京朝日新聞5/12,7/6,10 ポール湾、真珠湾、 ポールシチー ⁶	
1907(明治40,光緒33)	国際法雑誌6-4 真珠湾 東京朝日新聞2/2,11/30 パール港、真珠湾、 真珠湾軍港【初出】	
1908(明治41,光緒34)	東京朝日新聞3/3,8/6,9/6,10/13 パール・ハーボア、 パールベア【初出】、パール湾、真珠湾	申報3/3 珠港【初出】
1909(明治42,宣統1)	林三郎 布哇実業案内 ポール湾、 真珠湾パール・ハーバー軍港 東京朝日新聞6/7,11/14 パール港	国風報1-3 真珠湾
1910(明治43,宣統2)	高橋作衛 日米之新關係 真珠湾 本多庸一 外遊その折々 真珠湾 東京朝日新聞1/3,2/21,11/22,12/20,21 パールハーバー、真珠湾、真珠湾軍港	
1911(明治44,宣統3)	内外時事月函9月 真珠湾 ※京城日報8/16からの再録 内外時事月函10月 パールハーバー、真珠湾 東洋時論2-9 パールハーバー、真珠湾 通商彙纂28 真珠湾 東京朝日新聞1/30 真珠湾 読売新聞6/27 真珠港	申報2/22 珠港 盛京時報10/1 真珠湾
1912(大正1,民国1)	佐藤鉄太郎 帝国国防史論抄 真珠港 列国陸軍ノ現況 真珠湾 J・W・フォスター 米国の対東外交 真珠湾 巴奈馬太平洋万国大博覧会1 パール軍港【初出】、 パール湾、真珠湾 法学協会雑誌30-9 パール港 国際法外交雑誌11-2,3 真珠港	庸言1-3 真珠湾 申報11/20 珠港
1913(大正2,民国2)	川島清治郎 国防海軍論 真珠港	
1914(大正3,民国3)	北原鉄雄 次の一戦 真珠港、真珠軍港【初出】 大西林五郎 列強軍備及財政の現況 真珠湾 東京朝日新聞11/7 パール港 読売新聞5/31,12/7 真珠港	申報12/6 珠港
1915(大正4,民国4)	東京朝日新聞8/14 パール港	東方雑誌12-12 珠港
1916(大正5,民国5)	大石揆一 日米問題実力解決策 真珠湾 植民地大鑑 真珠湾、真珠湾軍港	大中華2-4 珠港 申報12/18 真珠湾
1917(大正6,民国6)	長田新訳 次の世界大戦 パール港、ベアール港	
1918(大正7,民国7)	満川亀太郎 列強の領土的並経済的發展 真珠湾	東方雑誌15-2 珠港

1919(大正8,民国8)	鈴木梅四郎 日本改造の意義及其綱領 真珠港	申報7/18,12/14 珠港
1920(大正9,民国9)	中山三郎・岡辻一郎 内治外交吾が家の顧問 真珠港	英華英地名検査表 珠港(Pearl Port) 何海鳴 中国工兵政策 真珠港【中国初出】
1921(大正10,民国10)		申報2/18,9/25,11/6 珠港, 真珠湾
1922(大正11,民国11)	石丸藤太 圧迫された日本 華盛頓会議の真相 真珠港, 真珠軍港 伊藤正徳 華府会議と其後 真珠港, 真珠湾 布哇日本人年鑑18 真珠湾	
1923(大正12,民国12)	外交時報442 真珠港 東京朝日新聞1/18 パール港	東方雑誌20-9 珠港
1924(大正13,民国13) ※米国 排日移民法施行	上原敬二 ハワイ印象記 パールハーバー 土屋元作 太平洋問題観瀾 パール港 石丸藤太 是れでも世界平和か 真珠港 樋口紅陽 国難来る 未来の日米戦争 真珠港	
1925(大正14,民国14)	林三郎・増田禎司編 布哇島一周 真珠湾 バイウオーター著 北上亮二訳 太平洋の争覇戦 真珠湾	
1926(昭和1,民国15)	外交時報508,513 パールハーバー, 真珠港, 真珠湾	林百克・徐植仁 孫逸仙伝記 珠港 東方雑誌23-15 真珠港, 真珠湾
1927(昭和2,民国16)		申報11/9 真珠湾
1928(昭和3,民国17)	時事年鑑 昭和4年 パール港 加治亮介 日米戦争 真珠湾 及川泰治 趣味の小学地理 真珠湾, 真珠湾軍港 日布時事布哇年鑑 昭和3年 真珠湾, 真珠湾軍港	
1929(昭和4,民国18)	池崎忠孝 米国怖るゝに足らず 真珠港	
1930(昭和5,民国19)	遠藤利男 世界の最下層を行く 真珠湾 渡辺七郎 布哇歴史 真珠湾, 真珠湾軍港	海事4-1 真珠港 申報2/25 珍珠港【初出】
1931(昭和6,民国20)	図解現代百科辞典5 パールハーバー, 真珠湾 松枝保二 帝国主義アメリカ 真珠湾軍港	
1932(昭和7,民国21)	上原敬二 日本の視点ハワイパールハーバー, 真珠湾 八木雄馬 米国斯の如し パール港 平田晋策 海軍読本 真珠軍港, パール港, パール軍港 松尾轟明 聯盟の危機と日米戦 パール軍港 野崎圭介 日米戦の土俵 布哇と比律賓 パール軍港, 真珠湾 宮嶋惣造 太平洋撃滅艦隊 真珠港 池崎忠孝 太平洋戦略論 パール湾 海野十三 爆撃下の帝都 パール湾 清沢冽 アメリカは日本と戦はず パール湾 秦真次 帝国の国防 真珠湾 池崎忠孝 太平洋戦略論 パール軍港, パール湾, 真珠湾	申報3/22,9/24,10/10,18,25他 珠港, 真珠湾, 真珠湾軍港【中国初出】, 珍珠港
1933(昭和8,民国22)	平田晋策 われ等若し戦はば パール軍港, パール湾 綿貫六助 日米開戦 米機遂に帝都を襲撃? 真珠港, 真珠軍港 米田実 太平洋問題 真珠湾 黒木文四郎 海軍とは何ぞや? 真珠湾 小林房太郎 世界地名大辞典 中巻 パール・ハーバー, 真珠湾	申報2/1,4,6,6,4,12/6他 珠港, 真珠港, 珍珠港
1934(昭和9,民国23)	豊川善嘩 京城遷都論 パール港 日本郵船株式会社編 布哇案内 真珠湾	標準漢訳外国人名地名表 珠港 申報1/12,2/6,3/11,4/10,7/25他 珠港, 真珠港, 真珠湾, 真珠湾 軍港, 珍珠港, 珍珠湾【初出】
1935(昭和10,民国24)	新聞雑誌に現れた明治時代文化記録集成 パール港 渡部七郎 布哇歴史 真珠港, 真珠港軍港 小林房太郎 世界地名大辞典 上巻 パール湾(Pearl Bay)	東方雑誌32-20 珍珠港 馮玉祥 中国と二次大戦 真珠港
1936(昭和11,民国25)	室伏高信 南進論 真珠港, 真珠軍港 伊藤政之助 現代の陸軍 真珠湾 外交時報760 真珠湾	東方雑誌33-17 珍珠港 申報7/15 珍珠湾軍港【初出】
1937(昭和12,民国26)	尾崎秀実 国際関係から見た支那 真珠湾 国際月報7 真珠湾港【初出】	辞海 珠港(Pearl Port)

1938(昭和13,民国27)	東京商工会議所編 東亜経済問題 パールハーバー、真珠湾 松井春生 日本資源政策 真珠湾 伍堂卓雄編 国防資源論 真珠湾 港湾16-6 真珠湾	
1939(昭和14,民国28)	池崎忠孝 日本最近対外政策論放 パール湾 池崎忠孝 新嘉坡根拠地 英国の極東作戦 パール湾 飯沢章治 南進政策の再認識 真珠湾 国際月報22 真珠湾 国際パンフレット通信1230 真珠湾軍港 外交時報92 真珠湾, 真珠湾軍港 企画2-5 パールハーバー	呂茫 大戦如果爆發 真珠港 世界辞典編訳社編 現代文化辞典 真珠港, 珍珠港
1940(昭和15,民国29)	国際事情研究会 日本を目標とする布哇の防備(其他) パール・ハーバー, 真珠湾 海軍有終会 太平洋二千六百年史 真珠湾, 真珠湾軍港 兵隊24 真珠港, 真珠湾 港湾18-5 真珠湾	葛綏成編 最新中外地名辞典 真珠湾
1941(昭和16,民国30) ※太平洋戦争開始	R・スミス アメリカより見た日米の衝突 真珠港 武藤貞一 日米十年戦争 真珠港, 真珠湾軍港 斎藤忠 太平洋戦略序論 真珠湾軍港 朝日東亜年報 昭和13~16年版 真珠湾, 真珠湾軍港 週報238,272 真珠湾, 真珠湾軍港 写真週報200 真珠湾 朝日新聞12/9 真珠湾 東京日日新聞12/9 真珠湾 読売新聞12/9 真珠湾, 真珠湾軍港	東方雑誌38-17 珍珠港 申報12/15 珍珠港 解放日報12/8 珍珠港 大公報12/9 珍珠港 盛京時報12/9 真珠湾 ※日本人創刊
1942(昭和17,民国31)	南洋地理大系8 パール・ハーバー軍港 萩原新生 武士道散華 真珠港 松田武四郎 天佑神助の国日本 真珠港 中正夫 航空日本翼の勝利 真珠港, 真珠湾 日本放送協会 愛国詩集 真珠湾 嶋信治 大東亜決戦の書 真珠湾 郷敏 米国の謬見と誤算 真珠湾 平出英夫 太平洋上不滅の戦果 真珠湾 蘆間圭 英傑の最期の言行 日本魂の神髓 真珠湾 中野正剛 此一戦国民は如何に戦ふべきか 真珠湾 大江専一 苦悶のアメリカ 真珠湾, 真珠湾軍港 芳賀雄 布哇 パール軍港, 真珠湾, 真珠湾軍港 棟尾松治 思想戦 真珠湾, 真珠湾軍港 伊藤政之助 西洋近代戦史 真珠湾軍港 芳賀雄 布哇 真珠湾軍港 大川清 大東亜戦争常識読本 真珠湾港 相馬基編 大東亜戦争海戦史緒戦篇 真珠湾, 真珠湾港 斯文24-3 真珠湾 中央公論57-1 真珠湾軍港 上毛文化7-4 真珠湾港 朝日新聞1/1 真珠湾, 真珠港 東京日日新聞1/1 真珠湾, 真珠港, 真珠軍港 読売新聞1/1 真珠湾	東方雑誌39-1,2,3,8 珠港, 珍珠港 南方150 真珠湾 ※日本人執筆

凡例・注

- 1) この年表は太平洋戦争開始期までの日中両語における真珠湾の名称の使用状況を示す。
- 2) 確認できた新聞における用例をすべて示すのは日本は1910年、中国は1920年ごろまでとする。
- 3) 1941(昭和16)年12月の開戦後は日本での用例が激増する。1942年については20例余りのみを示す。
- 4) 資料中に付記された原語のうちアルファベット表記の Pearl Harbor は表示を省く。
- 5) 文献名は記入スペースの制約上適宜調整して表示する。
- 6) 1903(明治36)7月6日の『東京朝日新聞』の記事は「真珠湾」に「ボールシチー」の振り仮名を添えているが、誤記であろう。Pearl City は湾ではなく町の名称である。Pearl City およびその意識地名「真珠市」については本文の注11を参照されたい。

SUMMARY

The History of Names for *Pearl Harbor* in Japanese and Chinese

Tadaharu TANOMURA

In present-day Japanese, *Pearl Harbor* on the island of Oahu, Hawaii, is called either ‘パールハーバー’ or ‘真珠湾’. The former is a phonetic rendition of the English name whereas the latter is a loan translation. In Chinese, *Pearl Harbor* is translated as ‘珍珠港’.

As we will show in this article, however, the situation was considerably different in the past. Until the first half of the twentieth century, a variety of names were used to refer to *Pearl Harbor* both in Japanese and in Chinese. Those names reflected the variety of the ways in which *Pearl Harbor* was called in English, where there were names including *Pearl River Harbor*, *Pearl Harbor*, *Pearl Bay* and *the harbor of the Pearl Bay*. We will also discuss the loan relationship between Japanese and Chinese with respect to the names for *Pearl Harbor*.